

国語科学習指導案（4年）

- 1 単元名 「お気に入りの主人公が出てくる物語を紹介しよう」
 ~登場人物の気持ちの変化をとらえ、物語のおもしろさについて自分の考えをもつ~
 教材名 ○「ポレポレ」西村まり子（学校図書 4年上） ○児童の選定による図書教材

2 考察

(1) 教材観

<①学習内容：学習指導要領上の位置付け>

- ・「C読むこと」：ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」
 オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」：イ(ア)「言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと」

<②伸ばしたい資質・能力>

- ・登場人物の気持ちの変化を叙述を基に読む力
- ・文章から必要な情報を取り出す力
- ・自分の考えを発表し、互いの感じ方の違いに気付く力

<③単元を貫く言語活動>

- ・語活動：「お気に入りの主人公が出てくる物語を紹介する」
- ・本単元での教材「ポレポレ」は、転校生と級友とのかかわりを小学校4年生の「ぼく」の視点で語られる物語文である。登場人物たちが学習者と同じ学年であり、場面設定も身近であることから、人物の心情に共感をしていける教材であると言える。そこで、登場人物の心情を読み取る技術の習得のために教科書での学習を単位時間内に他の文章に当てはめて読み取れるように、お気に入りの主人公が出てくる物語を各自で選び、その内容を「おすすめポイント」として友達に紹介する活動を言語活動として取り入れる。

<④教材文の特徴>

- ・本教材は、「読書を楽しもう」の単元として位置付けられ、読書の楽しみ方を知り、読書生活を広げることを目的とした教材である。本教材は、作品構成が反復型の展開で分かりやすく、主な登場人物は小学校4年生で、学習者と同じである。また、アフリカからの不思議な転校生との交流を軸に、クラスの女の子同士のトラブルから発生する事件や転校生とのかかわることで変わっていく登場人物の心情変化が描かれているなど、作品の設定が身近である。これらのことから、本教材は、4年生の児童が作品世界をイメージしやすい物語であると言える。
- ・並行読書をする関連教材は、学習のねらいに即した物語を児童が「お気に入りの本」として自由に選択する。関連教材の読み取りに教科書教材での学習を生かし、主人公の性格や気持ちの変化をとらえるという観点で理解を深めることができる。また、友達に紹介するという言語活動を設定することにより、相手意識をもった紹介シートの作成がまとめの活動ができるようになる。

<⑤必要な指導・活動>

- ・本単元では、物語を読み取るための読みの技術を身に付けることで、それらを他の文章の読み取りに生かすことができるようにするために並行読書型授業プランを設定する。
- ・関連教材の例示として、教師が選定した図書も紹介できるようにしておく。

選定図書例	○ともだちや シリーズ	○ふたりはともだち シリーズ
	○おまえうまそうだな シリーズ	○だれも知らない小さな国
	○にゃーご	○それいけズッコケ三人組
	○じごくのそうべえ	○だいじょうぶ だいじょうぶ など

<⑥今後の学習の活用>

- ・同じ作者、同じテーマなどに着目しながら、自分の読書生活を広げていけるようにする。

(2) 児童の実態及び指導方針

～「児童の実態」は省略～

- ・自分のお気に入りの本を選択できるように、導入部で読書マップを作成する活動を取り入れる。児童にたくさんの本に目を向けさせ、「お気に入りの本」を見付けさせる活動である。本に偏りが出てしまうことが考えられるので、教師が選定しておいた本（前述）を用意する。
- ・読書マップは教室掲示しておき、読書活動を広げるきっかけとして活用する。

3 研究とのかかわり

今日、子どもたちは、様々なメディアからの多種多様な情報に囲まれながら、知識基盤社会化やグローバル化が急速に進む社会に生きている。このような社会においては、たくさんの情報の中から自分に必要な情報を取捨選択し、そこから得たことを基に自分の考えを発信できるような情報を活用する力の育成が必要である。

そこで、本研究では、この課題に向き合うためには、教材や資料などの情報を取り出して組み合わせたり比べたりする学習活動を設定する必要があると考え、「並行読書型授業プラン」を設定する。

本単元では、教科書教材で習得した読みの技術を関連教材での読み取りに生かすため、1単位時間内に並行して学習する方法を設定する。読みを深めて、自分の考えをもつことができるようにするために、教材から取り出した情報を活用することができるようにしていく。

4 単元の目標

登場人物の行動や会話から性格や気持ちの変化を読み取り、自分が気に入った主人公の出てくる物語について紹介することができる。

5 指導計画（全7時間予定）

時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動	関	読	言
		活用させたい知識等	思考力・表現力等				
第1時	課題把握		・目的に応じて図書を選ぶ力	・関連教材を選ぶ	○		
第2時 ～ 第5時	課題追究	・語句の意味を理解する力 ・物語の設定を理解する力 ・心情を表す表現をとらえる力	・文章の内容をおおまかにつかむ力 ・登場人物の性格をとらえる力 ・文章から必要な情報を取り出す力 ・叙述から登場人物の心情をとらえる力	・主教材文を読み、感想をもつ。 ・物語のあらすじをつかむ ・作品設定を理解する。 ・登場人物の性格や心情が分かる叙述を抜き出し、人物の心情を想像する。 ・情景描写や細かな人物の様子を伝える人記の叙述に着目し、人物の心情変化をつかむ。		○	○
第6時 ～ 第7時	まとめ	・関連教材で教科書教材で学習した読み取り方を生かす力	・必要な情報を関連付けて考える力 ・自分の考えをまとめる力	・関連教材の読み取りを基に、紹介シートにまとめる。 ・紹介シートを発表し、感想をまとめる。	○		

6 指導と評価の計画（全7時間予定）

過程時間	言語活動	主な学習活動	関連教材での学習活動
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで読んできた本の中で、自分が気に入った物語を読書マップで紹介し合う。 ・学習課題 おもしろい話見つけた！お気に入りの主人公が出てくる物語を紹介しよう ・教師が作成した紹介シートで、学習の見通しをもつ。 	

		<ul style="list-style-type: none"> 各自で読んでみたい本を関連教材として選び、並行読書する。 【関】読書マップを参考に、進んで関連教材を選ぼうとしている。
第2次	2	<p>出会う → 「おもしろそう」「読んでみたい」と思わせる関連教材との出会いで興味をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 主教材「ポレポレ」を読む。(範読) 本文を読み、初発の感想を書く。(「読みの観点」に生かす) 【読】作品の大体の内容を把握し、自分の言葉で、初発の感想を書いている。 <p>→ 読みの観点① 登場人物、時代、場所</p>
	3	<p>比べる → 主教材の読みを副教材の読みで繰り返すことで、教材の読みが深まる</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語の作品設定を確認する。 物語のあらすじをとらえる。 登場人物の行動を手がかりに小見出しを付ける。 【読】物語のあらすじをとらえ、人物の行動を手がかりに各場面に小見出しを付けている。
	4	<p>→ 読みの観点② 登場人物の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの登場人物の性格を読み取る。 主人公の紹介を書く。 【読】登場人物の行動や会話から、それぞれの性格を読み取っている。
	5	<p>→ 読みの観点③ クライマックスと人物の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語の展開部から登場人物の気持ちの変化と主人公の役割について考える。 物語の感想を書いて、発表し合う。 【読】クライマックス場面と登場人物の気持ちの変化について読み取っている。
	6	<p>まとめる → 第2次で読み取ったことを基に、関連教材のまとめをして自分の考えをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2次での読み取りを基に、自分が気に入った物語の紹介シート作る。 観点①～③を基に、関連教材について読み取った内容とおすすめポイントをまとめる。 【読】自分の「お気に入り」の本の紹介文に、第2次の読み取りを生かしている。
第3次	7	<ul style="list-style-type: none"> 紹介シートで気に入った物語を友達に紹介する。 友達の紹介シートを基にした発表に対して「感想カード」を書いて交流する。 【読】友達の感想や紹介を読んで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。

自分の選んだ本の紹介をする

単位時間内の並行読書

10分程度の時間を確保

- 関連教材について読みの観点①を読み取る。
- 関連教材について読みの観点②を読み取る
- 人物の行動から物語のクライマックスをとらえる

7 展開計画 (全7時間)

< 1 / 7 >

- ねらい 自分の読書体験を振り返ったり、友達からのたくさんの推薦本を知ったりすることで、読書活動への興味をもつ。
- 準備 教師が選んだ本 模造紙 学習課題 (掲示用) 教師作成の紹介シート
- 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 教科書 P94～95 「読書案内」をきっかけに、自分の読んだ本について思い出す。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの自分の読書生活について振り返ることを知らせる。 ○読書傾向を把握していく。
追究する	<p>出会う →</p> <ul style="list-style-type: none"> 2. 読書マップを作る。 <ul style="list-style-type: none"> これまで読んできた本の中で、おもしろいと思ったり、自分の気に入った主人公が出てきたりする物語を発表する。 3. 教師によるブックトークを聞き、読書活動への見通しをもつ。 4. 単元の学習課題と学習計画を確認して、学習への見通しをもつ。 	35	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発言を基に、動物、男の子、女の子などの主人公別に分けて読書マップを作り、読書への興味を喚起する。 ○必要に応じて教師が用意した本を追加する。 ○選んでおいた本を使って教師がブックトークを行うことで、今まで興味のなかったと思われる傾向の本を知るきっかけを作る。 ○第3次での言語活動のまとめとして教師が作ったシートを学習モデルとして示す。
	<p>学習課題 おもしろい話みつけた！お気に入りの主人公が出てくる物語を紹介しよう</p>		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書教材としてどの関連教材を選ぶのか考える。 6. 関連教材を選んで、教科書教材と一緒に読んでいく学習について知る。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ○次時までに自分のお気に入りの本を選んでおくことや選択に迷ったら教師が相談に乗ることを伝える。

<2 / 7>

- (1) ねらい 教科書教材を読み、おおまかな作品の構造や設定をとらえ、教科書教材・関連教材について初発の感想をもつ。
 (2) 準備 ワークシート 世界地図 地図帳 関連教材（各自）
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 各自が選んだ関連教材を確認し、並行読書の学習について見通しをもつ。	5	○各自が選んだ関連教材について紹介し合う。3名程度の児童に、選んだ本と選んだ理由について発表させる。
	2. 主教材「ポレポレ」の範読を聞く。 ・難語句について確認する。		○「ポレポレ」を範読する。 ○児童の内容理解のために、いくつかの難語句については説明したり、全体で確認したりする。
追究する	3. 作品構造（三部構成）と作品設定（登場人物・場）について、確認する。	30	○作品構造（三部構成）と作品設定（登場人物・場）について、地図やポイントカードなどを使って確認する。
	4. 主教材の初発の感想を書いて発表する。		○主教材の初発の感想を書いて発表させ、作品についての児童の読みの着目点を確認する 【読】作品の大体の内容を把握し、自分の言葉で初発の感想を書いている。
まとめ	比べる	5	○読み取り学習の最後に、関連教材を扱う時間を設定することを知らせる。
	5. 関連教材の初発の感想を書く。	5	
	6. 本時の振り返りをし、次時の学習について知る。	5	○次時までに進めておく調べ学習等、家庭学習の方法について確認する。 ○次時の学習の予告をする。

<3 / 7>

- (1) ねらい 主教材のあらすじをとらえ、登場人物の行動を手がかりに各場面ごとの内容を読み取り、関連教材の作品設定についてもとらえる。
 (2) 準備 ワークシート 関連教材（各自）
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 前時の学習を振り返り、初発の感想から、友達の読みの着眼点について知る。	5	○初発の感想をまとめておき、友達のそれぞれの読みに対する着眼点の相違点や類似点に気付けるようにする。
	2. 物語の作品設定を読み取る。 読みの観点① 登場人物・場所・時		○登場人物として、「ピーター」、「友樹」、「いずみ」、「クラスの3人の女の子」についておさえる。 ○「友樹」の視点で物語が語られていることをおさえる。
追究する	3. 物語を「導入」「展開」「終末」の三つの部分に分けて物語のあらすじをとらえる。さらに、登場人物の行動を手がかりに、五つの場面に小見出しをつけて内容を読み取る。	25	○冒頭に物語の結末が語られる反復型の作品構造であることを確かめておく。 ○五つの場面に小見出しを付けることで、登場人物の行動をとらえられるようにする。 【読】物語のあらすじをとらえ、人物の行動を手がかりに各場面に小見出しを付けている。
	比べる	10	○自分の選んだ本について、できる範囲で同じ観点で読み取れるようにする。
まとめ	5. 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	5	○次時の学習の予告をする。

<4 / 7>

- (1) ねらい 主教材の登場人物の性格を記述から読み取り、それを生かして関連教材の主人公の性格についてとらえる。
 (2) 準備 ワークシート 関連教材（各自） 付箋紙
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 前時の学習を振り返り、主教材のあらすじや場面の小見出しを確認し、内容を想起する。	5	○主教材のあらすじ等を確認し、本時の学習を生かせるようにする。
追究する	<p style="text-align: center;">読みの観点② 登場人物の性格</p> 1. 登場人物の行動や会話文から、それぞれの性格を読み取る。 ・ピーター (P80、83、84、88、91) ・友樹 (P78、81、84、87、88、90) ・いずみ (P87、90、91) ・クラスの3人の女の子 (P87、90) ○ペア交流で確認して、サイドラインを引く。 ○全体交流で確認する。 3. 主人公「ピーター」の紹介を書く。	2 5	○「ピーター」、「友樹」、「いずみ」、「クラスの3人の女の子」について、それぞれの性格がよく分かる行動の記述や会話文を見付けるようにしていくが、付箋を貼らせることで、厳密に指摘させるのではなく、おおまかにとらえられるようにする。 ○主人公であるピーターを中心に読み取らせていくようにし、友樹といずみについては気付いたことを記入させるようにしておく。 ○ペアになり、お互いに付箋を貼った記述について見合うことで確認し、相談してサイドラインを引く。 ○全体で確認し、それぞれの性格をまとめるようにさせる。 ○読み取ったことを基に、主人公ピーターについての紹介文を書くようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">【読】登場人物の行動や会話から、それぞれの性格を読み取っている。</div>
	<p style="text-align: center;">比べる</p> 4. 関連教材の主人公について読み取る。 5. 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	1 0	○関連教材の主人公の性格をどのように表現できるのか考えさせ、言葉で表すようにさせる。根拠となる記述も指摘できるようにする。
まとめ		5	○次時の学習の予告をする。

< 5 / 7 >

- (1) **ねらい** 主教材のクライマックス場面での登場人物の気持ちの変化と、それにかかわる主人公の役割について考え、関連教材のクライマックス場面を考える。
- (2) **準備** ワークシート 関連教材 (各自)
- (3) **展開**

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 前時の学習を振り返り、登場人物の性格やピーターについて書いた紹介文を振り返る。	5	○前時の学習内容を思い起こさせ、ピーターの紹介文を数名の児童に発表させる。
追究する	<p style="text-align: center;">読みの観点③ クライマックスと人物の変化</p> 2. 4、5場面の登場人物の行動から「友樹」「いずみ」の気持ちの変化とそれにかかわる「ピーター」の役割について考える。 ・最初と最後では、友樹といずみがどのように変わったのか考える。 ○ペア交流で考えを交流する。 ○全体交流で確認する。 3. 物語の感想を書いて、グループで発表し合う。	2 5	○4、5場面を読み、友樹といずみの会話や行動からそれぞれの気持ちの変化をとらえさせ、根拠となる記述をおさえる。 ○友樹については、2の場面での行動をもとにした理解も参考にできるようにする。 ○気持ちの変化にピーターがどのようにかかわっているのか、考えられるようにする。 ○記述を根拠として、自分の考えを書かせるようにする。 ○ペアになり、お互いの考えを交流できるようにする。 ○自分の考えを必要に応じて修正するように伝える。 ○意図的に指名し、全体で意見が練り合えるように発表を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">【読】クライマックス場面と登場人物の気持ちの変化について読み取っている。</div>
	<p style="text-align: center;">比べる</p> 4. 関連教材のクライマックス場面について考える。 5. 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	1 0	○関連教材のクライマックス場面はどこか考えさせるが、第3次でまとめることができるので、読みの観点の意識付けを中心に行う。
まとめ		5	○次時の学習の予告をする。

<6 / 7>

- (1) ねらい 第2次での読み取りを基にして、自分が選んだ関連教材の紹介文をつくる。
 (2) 準備 ワークシート 紹介シート 関連教材 (各自)
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習を確認する。	5	○前時の学習内容を思い起こさせ、今までの学習を基に、関連教材についてまとめるための見通しをもてるようにする。
追究する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> まとめる </div> 3. 「お気に入り」の本の紹介文を書き、紹介シートにまとめる。 ・第2次で、「読みの観点」に基づいて読み取ってきたことを使って、関連教材の内容をまとめる。 ・友達に本の紹介をする「おすすめポイント」を意識した紹介文を書く。	3 5	○第2次での読み取りを基に、自分の「お気に入り」の本のおもしろさはどこにあるのか考えさせる。 ○読み取りを基に、自分のお気に入りのポイントを決め、友達に伝えるために、どのように書いたら良いのか考えることで相手意識をもてるようにする。 ○P94～95「読書案内」の本の紹介文にも着目するように伝えヒントにできるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【読】 自分の「お気に入り」の本の紹介文に、第2次の読み取りを生かしている。 </div>
まとめ	5. 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	5	○次時の学習「おすすめの本の発表会」をすることを伝える。

< 紹介シート > (A4版の用紙を三等分して使用)

本の題名 作者・挿絵 など 氏名	観点①、③から 観点②から	<おすすめポイント>
--------------------------------	--------------------------	------------

<7 / 7>

- (1) ねらい 自分の「お気に入り」の本の紹介文を発表し合い、それぞれの感じ方に違いがあることに気付く。
 (2) 準備 ワークシート 紹介シート 関連教材 (各自)
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 本の紹介の方法を知る。	5	○グループで紹介し合うこと、感想カードを書いて渡すことを伝える。
追究する	2. グループで「お気に入り」の本を紹介し合う。 ・グループの友達に感想カードを渡す。 3. 友達の本の紹介を聞いて、友達の取組について感じたことを発表する。 ・感想カードに感想を記入する。	2 5	○5人グループで順番や発表時間などを確認させる。 ○発表者に感想を書くときには、発表者の意図に沿った評価をしてあげられるようにさせたい。そこで、以下の観点の中から、聞き手が、特に感じたことを選んで伝えるようする。 ①あらすじの書き方。 ②主人公の性格の伝え方。 ③「おすすめポイント」の魅力度。 ④全体的な分かりやすさ。 ⑤「こうしたほうが伝わる」という改善点の提案。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【読】 友達の感想や紹介を読んで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 </div>
まとめ	5. 単元全体を振り返り、学習して考えたことをまとめる。	1 0	○「ポレポレ」や自分の選んだ本についての感想や並行読書で分かったこと、学習の形態などで学んだことなどを記述できるようにする。

国語科学習指導案（6年）

1 単元名 情報との付き合い方を考えよう

～事例を整理して要旨をとらえ、自分の考えをもつ～

教材名「メディア・リテラシー入門」ほか

2 考察

(1) 教材観

<①学習内容：学習指導要領上の位置付け>

・「**「読むこと」**」：ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読みだりすること」

カ「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」

・「**「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」**」：イ(キ)「文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること」

<②伸ばしたい資質・能力>

- ・事例と意見を読み分ける力
- ・事例と意見の関係をとらえる力
- ・文章を基に自分の考えをまとめる力

<③単元を貫く言語活動>

・言語活動例：イ「自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること」

・単元を貫く言語活動：「情報を活用する方法を考え、友だちと意見を交流する」

本単元は、メディアの特徴を理解し、情報を正しく判断することについて自分の考えをもたせていくことをねらいとしている。そこで、複数の文章から筆者の主張の根拠や理由を探することで自信をもって自分の考えを言語化することができ、さらに、友達と意見交流をすることで自分の考えを広げたり深めたりすることができる言語活動を設定する。

<④教材文の特徴>

・教科書教材「メディア・リテラシー入門」は、文章構成が序論、本論、結論の構成で、本論において、各メディアによるニュースの特徴を事例をもとに説明している三段構成の分かりやすい説明的文章教材である。児童は、5年生の「新聞の読み方を考える」において新聞記事が作り手の意図が表れた情報であることを学習している。本教材では、さまざまなメディアの特徴について知り、情報と自分とのかかわりという視点で考えることのできる内容になっている。そのため、情報について学習した内容を生活の中に転移させていくことのできる教材であると考えている。

・関連教材とする説明的文章は、いずれも5年生の教科書教材である。そのため、6年生にとっては内容理解が比較的容易である。また、インターネット、テレビのニュース、言葉による伝わり方の違いといったメディアを題材にした要点がつかみやすい文章で、どの筆者も情報を選ぶことの大切さについて考えるように読者に投げかけている。つまり、文章の要旨に共通点があることにより、教科書教材での筆者のメッセージを受け止めた児童が、自分なりに考えをまとめる時の根拠や理由といった材料にすることができる内容である。

<⑤必要な指導・活動>

・本論での事例を手がかりに、各メディアのニュースの特徴についてサイドラインを引いたり、表にしたりして、それぞれ作り手の意図の違いを分かりやすくまとめることができるようにする。

・教科書教材の要旨をとらえ、各メディアの特徴を実感をもって理解できるように、関連教材で並行読書による比べ読みをする。

<⑥今後の学習の活用>

- ・「レポートをまとめよう」での集めた資料を活用し、目的に応じて取捨選択しながら自分の考えをレポートとして文章にまとめていく学習。
- ・相手意識や目的意識を明確にし、事実と意見を区別して書く学習。

(2) 児童の実態及び指導方針

＜これまでの既習の内容＞

- ・5年生の説明文教材「新聞の読み方を考える」で事実と意見の関係を読み取る学習において新聞の読み比べを通して、新聞記事には作り手の意図が表れていることを理解している。

＜本単元にかかわる実態及び指導方針＞

～「児童の実態」は省略～

本単元では、並行読書を取り入れた授業プランでの指導方針を以下のように考える。

- ・本単元で身に付けたい力や伸ばしたい資質・能力を焦点化するために、説明的文章の読みの観点を設定し、既習事項を整理しながら読み取りを進める。
- ・教科書教材の読みを深め、児童が自分の考えをもてるようにするために、メディアを題材として扱った他の教科書の5年生の説明文教材を関連教材とする。児童は選定させた関連教材の中から自由選択し、読み取りの場面では、選んだ文章毎のグループ編成を基本として交流する。
- ・第2次では、新聞だけでなく、テレビや他のメディアからの情報も発信者である作り手の意図が表れていることが理解できるようにするために、三つのニュース番組を比較させる活動を設定する。資料映像は総務省の動画教材を活用する。

(関連 URL : 総務省 教育者向け情報

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsin/top/hoso/kyoiku.html)

- ・第3次では、第2次での読み取りを活かして言語活動としてまとめられるように、グループ交流で自分の考えを深められる交流の視点をおさえて、交流での基本を確認していくようにする。

3 研究とのかかわり

本単元では、文章の要旨をとらえながら、情報を正しく理解して判断していくメディア・リテラシーの力を付けるとはどういうことなのかということについて、自分の考えをもたせていきたい。さらには、本単元で得た知識や自分の考えを実生活や他の教科の学習へと活かすことができる、学習の活用へと広げていきたいと考える。このようなメディア・リテラシーの力の必要性を児童がより実感をもって理解をしていくために、メディアとの付き合い方を考えるヒントとなるような情報に出会わせる必要がある。つまり、目的に応じて、複数の文章を選んで比べて読む学習を通して、それらを活用する力の育成も図ると言うことである。そのために、メディアを題材として扱った他の説明文教材を関連教材として並行提示型の並行読書型授業プランを設定し、児童が自分の考えをもてるようにしていきたいと考える。

4 単元の目標

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえてとらえた要旨や事実と意見の関係などの読み取ったことを基に、自分の考えをもつことができる。

5 指導計画 (全8時間予定)

評 価 規 準	国語への 関心・意欲・態度	新聞、ラジオ、テレビなど、メディアにはたくさんの種類があることを知り、それぞれに伝える側の意図に違いがあることを理解して情報と付き合っていこうとしている。					
	読む能力	それぞれのメディアの特性やその活用の仕方を内容から読み取り、生活の中でメディアと上手に付き合っていくことについての自分の考えをもっている。 比べて読んだ文章を基に考えたことを発表し合い、自分の考えを深めている。					
	言語についての 知識・理解・技能	文や文章には、伝え方によって、いろいろな構成があることについて理解している。					
時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動	関	読	言
		活用させたい知識等	思考力・表現力等				
第1時	課題	・語句の意味の理解	・文章の内容を大まか	・主教材文を読み、感想を	○		

第2時 ～ 第5時	把握 課題 追究	<ul style="list-style-type: none"> 接続語、指示語の知識 (例えば、では、ところで、それでも、こうして、これ、この など) 説明文における問いと答えの呼応についての知識 文章構成の知識 (序論・本論・結論) 文末表現に関する知識 (問い：～でしょうか) (意見：～のです) 	につかむ力	もつ。				○	
			<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成をつかむ力 	<ul style="list-style-type: none"> 説明内容のまとまりを考え、文章構成をとらえる。 					○
			<ul style="list-style-type: none"> 事例と意見を読み分ける力 事例と筆者の考えの関係をとらえる力 必要な情報を関連付けて考える力 文章を基に自分の考えをまとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> 問いと答え、事例を構成表にまとめる。 事例をまとめた構成表を基に、事例の役割について考える。 今までの学習を基に、筆者の考えに対して自分の考えをもち、発表する。 				○	
第6時 ～ 第7時	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 関連教材に教科書教材で学習した内容を転移させること 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を関連付けて考える力 	<ul style="list-style-type: none"> 関連教材の要旨をとらえ教科書教材での要旨と比べて、自分の考えを深め、意見を交流する。 				○	
			<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体を振り返り、観点に沿って学んだことをまとめる。 				○	

関連教材一覧

教材名	筆者	掲載教科書
自分の考えを明確にしながら読もう 「ゆるやかにつながるインターネット」	池田 謙一	光村図書 5年 銀河
メディアとわたしたちのかかわりについて考えよう 「テレビとの付き合い方」	佐藤 二雄	東京書籍 5年下 新しい国語
読書の森で 「メディアとの付き合い方」	堀田 龍也	三省堂 5年 学びを広げる
情報を深める 「言葉と事実」	福沢 周亮	教育出版 5年上 ひろがる言葉
書き手の意図を考えながら新聞を読もう 「新聞記事を読み比べよう」		東京書籍 5年上 新しい国語

6 指導と評価の計画 (全7時間予定)

時間過程	言語活動	主な学習活動 及び 評価	…関連教材の学習活動
第1時 課題把握	意見文にする さまざまなメディアからの情報との付き合い方を考え、	<ul style="list-style-type: none"> 教師による主教材の範読を聞く。 主教材文について感想をもつ。 学習課題や学習計画を知り、学習の見通しをもつ。 	
		<p>学習課題 さまざまなメディアからの情報との付き合い方を考えよう。</p> <p>【関】 新聞、ラジオ、テレビなど、メディアにはたくさんの種類があることや、それぞれに特性があることを知り、学習への見通しをもつことができる。</p>	
第2時 ～ 第5時 課題追究		<p>出会う 見通し① 「おもしろそう」「読んでみたい」と思わせる関連教材との出会いで興味をもつ</p> <p style="text-align: center;">読みの観点① 題名、構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 題名を手がかりに、説明文のおおまかな内容をとらえる。 序論、本論、結論の三段構成の文章構成をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を解決するための関連教材があることを知り、関連教材を選ぶ。 資料集
		<p>【言】 説明している内容のまとまりをおおまかにとらえ、三段構成の文章構成であることを理解することができる。</p>	
		<p>比べる 見通し② 主教材の読みを関連教材の読みで繰り返すことで、教材の読みが深まる</p> <p style="text-align: center;">読みの観点② 問いと答え、小見出し</p> <ul style="list-style-type: none"> 問いと答えの文をおさえる。 事例を構成表にまとめ、全体の構成をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で選んだ関連教材の問いと答えの文を手がかりに、文章構成を

さまざまなメディアからの情報このつき合い方を考え、意見文にする

- ・意味段落ごとに要点をおさえて、小見出しを付ける。

確かめる。 グループ交流

【読】 文章全体の構成をとらえて、小見出しを付けることができる。

読みの観点③

事例

- ・事例を基に、それぞれのメディアの特徴と事例の示す意味について読み取る。
- ・関連教材と比べたことを発表する。

- ・自分で選んだ関連教材で、筆者の考えとその根拠なる事例を確認する。

【読】 それぞれの事例から内容を読み取り、事例の役割を考えながら要旨をとらえることができる。

- ・ニュース番組や新聞記事、インターネットのニュースを比較し、第一次情報が同じでも伝わり方が違うことを確認する。
- ・読み取ってきたことを基に、筆者のメッセージを受けての自分の考えをもつ。
- ・グループで意見交流する。

- ・教科書教材の内容と自分で選んだ関連教材の内容には、共通点があることを確認する。

グループ交流

【読】 ニュースの比較を通して、読み取ってきたことを確かめ、筆者の考えについて自分の考えをもつことができる。

まとめる

見通し③ 第2次で読み取ったことをもとに、関連教材のまとめをして自分の考えをまとめる

- ・第2次での読み取りを基に、関連教材の要旨をとらえ、筆者のメッセージをまとめる。
- ・教科書教材と関連教材の要旨と筆者のメッセージを比べて、グループで意見交流をする。
- ・学習課題「情報を生活に生かす方法を考えよう」について、自分の考えをまとめる。

【読】 メディアを活用していくことについての自分の考えをもち、比べて読んだ文章の要旨から考えたことを発表し合い、自分の考えを深めることができる。

- ・同じ関連教材を選んだグループで意見交流をして、自分の考えに加筆したり、修正したりしながら、考えを整理していく。
- ・自分の考えを発表し合い、学びを広げる。
- ・単元全体を振り返り、自分の学びをまとめることで、学習の転移を意識できるようにしていく。

【関】 学習を振り返り、情報を自分の生活に活用していく方法について考え、実践していこうとしている。

7 本時の展開 (全7時間)

< 1 / 7 >




- (1) **ねらい** 筆者の提起している問題を手がかりに、初発の感想をかく。
- (2) **準備** ワークシート
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p><本時の課題を把握する></p> <p>1 題名と序論を読み、今までの自分と情報とのかかわりについて考える。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・題名「メディア・リテラシー入門」から、情報と付き合っていくことについて問題提起されていることを知り、興味を喚起する。
<p><課題を追究する></p> <p>2 教師の範読を聞きながら、教材文のおおまかな内容をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字や難語句について確認し、次時まで調べておくことをおさえる。 <p>3 初発の感想を書く。</p>	35分	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着のため、難語句や新出漢字をチェックし、家庭学習の内容を全体で確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">発問1：感想を書いてみましょう。内容を理解するためのヒントになるような感想を発表してみましょう。</p> </div>
<p>4 メディア・リテラシーにかかわる</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・初めて知ったことを含めた感想と内容の読み取りにかかわる疑問とを分類することで、課題を

<p>感想の中から、読みの観点を考える。</p> <p>ニュースにいろいろな種類があるなんて考えたことはなかったな。それぞれのニュースの伝え方が違うなんておどろいた。</p> <p>メディア・リテラシーって初めて聞いたけど、大切なことなんだ。小見出しをつけたり、メディアの特徴を考えていったりすると、詳しく分かるようになるかな。</p> <p>5 単元の学習課題を知り、学習に対して見通しをもつ。</p> <p>学習課題：さまざまなメディアからの情報との付き合い方を考えよう</p>		<p>焦点化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初発の感想を全体で確認しながら、読みの観点を設定する。 <p>◇新聞、ラジオ、テレビなどのメディアにはたくさんの種類があることやそれぞれに特性があることを知り、学習への見通しをもつことができる。 (ノート、発言)【関】</p> <p>発問2：情報と付き合っていくってどんなことかな。考えていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3次での言語活動についての学習課題を知ること、学習に対して興味をもてるようにする。 日常生活でのさまざまなメディアからの情報にかかわることへの関心を高められるように、情報を収集する機会をもつように伝える。
<p><本時のまとめをする></p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習について、学習の見通しという点で振り返るようにする。

<2/7>

- (1) ねらい 題名を手がかりにおおまかな内容をとらえることで、文章構成を理解する。
(2) 準備 関連教材集 ワークシート ポイントカード 拡大した本文
(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p><本時の課題を把握する></p> <p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>読みの観点① 題名・構成</p> <p>文章の構成を考えよう</p>	<p>2分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を想起し、学習課題から、本時の学習内容を理解できるようにする。
<p><課題を追究する></p> <p>2 関連教材を知り、自分の興味のある教材を並行読書教材として選ぶ。</p> <p><関連教材></p> <p>「テレビとの付き合い方」 「言葉と事実」 「メディアとのつき合い方」 「ゆるやかにつながるインターネット」</p>	<p>10分</p> 	<p>発問1：教科書のテーマと内容の似ている文章があります。同じところや違うところを比べながら読んでいきましょう。</p> <p>☆教師が選定した関連教材を提示し、他の教科書の5年生の教材であること、内容が教科書教材と同じテーマであることなどを伝え、児童の負担感を軽減できるようにする。 ◎選べない児童には教材文と構成が一番似ている「ゆるやかにつながるインターネット」を選ぶように助言する。</p>
<p>3 教材文の文章構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な文章構成図をかく。 <p>構成が序論・本論・結論になっている。 題名から考えると、情報に関することが書かれているようだ。 大事なことは最後の方に書いてあるな。</p>	<p>20分</p> 	<p>発問2：題名があらわすことはどこに書かれていますか。5年生までの学習を思い出して、要旨を考えながら文章の構成を考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な文章構成図についても、既習事項を思い出させながら各自で書かせるようにする。 <p>◇説明している内容のまとまりをおおまかにとらえ、三段構成の文章構成であることを理解することができる。 (ワークシート、発言)【言】</p>
<p>4 並行読書</p> <p>①関連教材を読み、読みの観点①についてまとめる。 ②同じ教材を選んだグループで読みの観点について確認する。</p> <p>意味段落ごとに、何が書かれているか考えればいいんだね。</p>	<p>10分</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ文章を選んだメンバーでグループを作る。 各自で選んだ関連教材を読み読みの観点①についてまとめる時間を確保する。 <p>◎漢字に読み仮名を振った文章を用意する。 グループで読みを確認することで、自分の読み取りを確かめ、学習の転移を意識できるようにする。</p>
<p><本時のまとめをする></p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習について、文章構成という視点で振り返るようにする。

< 3 / 7 >






- (1) ねらい 問いと答えの文を手がかりに意味段落毎の要点をとらえ、小見出しを付けて内容を理解する。
 (2) 準備 ワークシート ポイントカード 拡大した本文
 (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p><本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認し、学習への見通しをもつ。</p> <p>読みの観点② 問いと答え 小見出し</p> <p>段落毎の要点をとらえて、小見出しを付けよう</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成図を提示し、前時の学習を想起できるようにする。 読みの観点②として、学習課題を提示する。
<p><課題を追究する> 2 問いと答えの文をおさえ、内容を大まかにとらえながら意味段落に小見出しを付ける。</p> <p>○自力読み ○ペア交流 (随時)、グループ交流 ○全体交流</p> <p>文章の中で大事な言葉やまとめている言葉を見つけたいんだな。</p> <p>接続語に注目すると段落のつながりが分かるから、段落の要点も分かるかな。</p> <p>3 並行読書 ①関連教材を読み、読みの観点②の問いと答えの文の関係を読み取り、サイドラインを引かせる。 ②グループで確認する。</p> <p>・どの文章も問いと答えの文が出てくる。 ・問いと答えの文が近かったり、離れていたりするのは構成が違うのかな。</p>	2.5分	<p>発問1：意味段落を短い言葉で表してみましょう。小見出しになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小見出しを自力読みで考えられるように、前時で作成した構成図を参考にできるようにする。 早くできた児童には、ペアやグループで意見交流するように伝え、自分の考えをまとめられるようにする。 ◎中心となる語句がとらえられるように、サイドラインを引き、注目点を示せるようにする。 <p>発問2：①キーワードが使っているか②問いと答えの関係がつながっているかという点で小見出しを吟味してみましょう。</p> <p>◇ 文章全体の構成をとらえて小見出しを付けることができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p> <p>発問3：関連教材での問いと答えの文の関係で気付いたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自で選んだ関連教材を読み、読みの観点②で読み取るための時間を確保する。 グループで着目した部分を確認し合い、文章の構成の類似点を確認する。
<p><本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返る。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習で小見出しについての視点で学習を振り返るようにする。

< 4 / 7 >







- (1) ねらい 事例の内容を読み取り、事例の役割を考えながら筆者の考えとの関係をとらえる。
 (2) 準備 ワークシート ポイントカード 拡大した本文
 (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p><本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認し、学習への見通しをもつ。</p> <p>読みの観点③ 事例</p> <p>事例と筆者の考えとの関係を考えよう</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> 前時での構成表を確認し、文章の内容を振り返る。 読みの観点③として、本時の学習課題を提示する。
<p><課題を追究する> 2 事例として挙げられている各メディアの特徴についてまとめる。</p> <p>○自力読み ○ペア交流 (随時) ○全体での確認</p>	2.5分	<ul style="list-style-type: none"> 表を作成し、読みの観点③にそって、各メディアの特徴についてまとめられるようにする。 それぞれのメディアの立場の違いを明確にすることで、メディアがどんな特徴をもち、伝える側がどんな意図をもっているのかをとらえられるようにする。 ◎前時までの構成表や小見出しを参考にするように助言する。

<p>3 それぞれのメディアの「伝える側の意図」の違いと筆者の考えとの関係について考える。</p> <p>○ペア交流（随時）、グループ交流 ○全体での確認</p>		<p>発問1：メディアの情報の伝え方の違いが、事例として挙げられているのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が事例を自分の考えの根拠や理由付けとしていることが理解できるように、事例と筆者の考えの関係を図示する。 ・自分の考えがもてるように、自力読みの時間を確保する。ペアやグループでの交流を必要に応じて取り入れることで、自分の考えを確かめられるようにする。
<p>事例は筆者の考えとつながるように書かれているから、筆者の考えを分かりやすくしているんじゃないかな。</p>		
<p>事例があると、筆者の考えがさらによく分かるようになる。事例って必要だな。</p>		<p>◇ それぞれの事例から内容を読み取り、事例の役割を考えながら筆書の主張との関係をとらえることができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p>
<p>4 並行読書 ①関連教材を読み、読みの観点③についてまとめる。 ②意見交流する。</p> <p>事例は筆者の考えの根拠となっている。事例と筆者の考えの関係は同じなんだね。</p>	 10分 	<p>発問2：関連教材での事例ではどうでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みの観点③についてまとめる時間を確保したあと、グループで読みを確認することで、自分の読み取りを確かめる。
<p><本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習について、事例の役割という視点で振り返り、文章でまとめるようにする。

< 5 / 7 >

- (1) ねらい ニュース番組の比較を通して、筆者の考えに対する自分の考えをもつ。
(2) 準備 ワークシート ポイントカード 拡大した本文 電子黒板
(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p><本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認する。 筆者の考えについて自分の考えをもとう</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習の流れを想起できるように、読みの観点①～③での読み取りを振り替える。
<p><課題を追究する> 2 三つのニュース番組を比較し、同じ情報でも伝える側の意図によって伝わり方が違うことを確認する。 やっぱり、伝える側の意図が違うと、使っている映像も、インタビューも違うね。 ニュースの伝える内容が、全く違ってくるね。</p>	<p>20分</p>   	<p>発問1：三つのニュース映像を見て、伝える側の意図という点でどんなことが分かるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つのニュース映像は、同じ熊騒動を扱ったものであることを説明し、見る側にどのような印象を与えるのかを比べる視点として示す。 ・それぞれのニュースから読み取れる、伝える側の意図について発表させ、全体で違いを確認する。
<p>3 筆者の考えについて自分の考えをもつ。 ○自力読み ○ペア交流（随時）、グループ交流 ○全体での確認 ニュースが編集されているなんて思いもしなかったのとおどろいた。メディアはいろいろあるので、ニュースを正しく判断するようにしていきたい。</p>	<p>10分</p>  	<p>発問2：筆者がみんなに伝えたいことについて、どんなことを考えましたか。筆者への自分の返事を考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えについて、事例や自分の経験、ニュースの視聴などから、自分で考えたことをまとめられるようにする。 ・意見交流で得られたヒントや助言などを基に、文章表現などを修正する時間を確保する。
<p>メディア・リテラシーの力をつけることは大切だと思った。よりよい情報を選ぶ力を付けることは必要だと思った。</p> <p>4 並行読書 ①教科書教材と関連教材の共通点を考</p>	<p>5分</p> 	<p>◇ ニュースの比較を通して、読み取ってきたことを確かめ、筆者の考えについての自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で選んだ関連教材と教科書教材には、事例や筆者の考えなどで共通点があることに気付けるようにする。

える。 ②意見交流する。		
<本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返る。	5分	・本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。

<6/7>

(1) ねらい 教科書教材と関連教材を比べながら、メディアを活用していくことについて自分の考えをもつ。

(2) 準備 ワークシート ポイントカード

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認し、学習への見通しをもつ。 それぞれの筆者のメッセージを比べよう	5分	・本時の学習課題から、教科書教材と関連教材の筆者の考えをそれぞれのメッセージととらえ、比べて考えることを確認する。
<課題を追究する> 2 自分で選んだ関連教材の要旨をとらえながら、筆者の考えをまとめる。 ○自力読み ○グループ交流	20分	発問1：それぞれの関連教材の筆者の考えをまとめてみましょう。 ・第2次での読み取りを読みの観点で確認する。 ・グループで意見交流し、共通点やグループで大事だと確認した点についてまとめる視点で、グループで交流できるようにする。 ◎サイドラインを引くことで、要点に着目できるようにする。
3 二つの教材の筆者の考えから、情報を受け取る側が考えなければいけないことについて自分の考えをもつ。 <筆者の考えの共通点に着目した姿> 「メディア・リテラシー入門」でも「ゆるやかにつながるインターネット」でも、筆者は、情報やメディアを使うわたしたちがどのようにそれを使うかが大切だと言っている。自分たちが使い方を考えることが必要だ。		発問2：筆者のメッセージに対して、どのように答えますか。自分の考えを書いてみましょう。 ・グループの意見を全体で確認し、違う筆者の文章でも読者に伝えたい考えは同じであることを実感できるようにする。 ・自分の考えを書くときには、引用や事例を使って、考えの根拠やその理由として示すことをおさえる。
<筆者の考えと自分の生活との関連に着目した姿> 「メディア・リテラシー入門」で、ニュースは編集されていることを知ったが、「言葉と事実」では、伝える側がどのような目的や見方で言葉を使っているかを考えることが必要だと言っていた。メディアリテラシーの力は、普段の生活にも役に立つ。	15分	◎二つの文章の共通点に着目させるようにする。 ◇ 比べて読んだ文章から、メディアと付き合い合っていくことについての自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言)【読】
<本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返る。	5分	・本時の学習について振り返らせ、文章でまとめられるようにさせる。

<7/7>

(1) ねらい いろいろなメディアからの情報を自分の生活に生かしていく方法について考える。

(2) 準備 ワークシート 小黒板

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認し、学習への見通しをもつ。 情報との付き合い方を考えよう	5分	・前時までの学習を振り返り、自分の考えを確認する。

<課題を追究する>

2 グループ交流でそれぞれの意見を発表し合い、自分の考えをまとめる。



発問1：自分たちの考えを発表し合ひましょう。友だちの考えと同じところや違うところを考えながら聞きましょう。

3 グループの意見をまとめる。
・小黒板にグループの意見をまとめる。

20分

- ・前時でまとめた自分の考えをグループ交流の場で発表し、助言やヒントを基に、自分の文章に必要な修正や加筆などができるようにする。
- ◎グループの友だちの考えを鵜呑みにすることのないように、自分の考えに不足していることを加筆していくように助言していく。
- ・意見を無理の一つにまとめなくても良いこと、多数意見がよいとは限らないことなど、意見を深めながらまとめることの基本を確認する。

4 学級全体でそれぞれのグループの考えを知り、学習課題についての自分の考えをまとめる。

15分

わたしたちが毎日聞いているニュースは、実は、編集されていて、いつも正しいとは限らない。情報を伝えるメディアもたくさんあって、伝える内容に違いがあることを知りながら情報を受け取らなければいけない。情報と上手につき合って、利用していきたい。



◇ 学習を振り返り、情報と付き合っていく方法について自分の考えをもっている。
(ワークシート、発言) 【関】

<本時のまとめをする>

5 本時の学習を振り返る。

5分

- ・本単元の学習について振り返り、文章にまとめられるようにする。

国語科学習指導案（4年）

1 単元名 「感想交流会をしよう」

～ 作品世界から感じたことを自分の生活へと振り返り、自分の考えをもつ～

教材名「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」新美南吉

2 考察

(1) 教材観

<①学習内容：学習指導要領上の位置付け>

- ・「C読むこと」：ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」
エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする」
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」：イ(ア)「言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと」

<②伸ばしたい資質・能力>

- ・登場人物の気持ちの変化を叙述を基に読む力
- ・文章から必要な情報を取り出す力
- ・自分の考えを適切な言葉で表す力

<③単元を貫く言語活動>

- ・言語活動：「感想発表会をしよう」
- ・本単元での教材「ごんぎつね」は、「ごん」と「兵十」のかかわりを中心に、ごんの視点で語られる物語である。主な登場人物が二人に絞られているので、登場人物の心情を情景と結び付けながら想像することに適している教材と言える。そこで、登場人物の心情を自分の経験と照らし合わせて読み取り、感想として自分の考えを言語化する活動を言語活動として取り入れる。

<④教材文の特徴>

- ・教科書教材「ごんぎつね」は、新美南吉の代表作であり、長く4年生の教科書に教材として扱われている物語文である。人間に対していたずらを重ねる一人ぼっちの小狐ごんは、兵十へのいたずらを後悔して償いをしていくうちに、母親に死なれ自分と同じ一人ぼっちになった兵十との心の交流を求めるようになる。しかし、その思いは、ごんの死をもってしか通じ合うことができなかったという物語は、児童に悲劇として鮮烈な印象を残す。

ごんのひたむきな償いの行為は児童の深い共感と呼び、ごんを撃つ兵十の行為を酷いととらえてしまう児童が多いと考えられる。しかし、人間である兵十の立場へと視点を転じれば、ごんは「ぬすつとぎつね」でしかなく、ごんがどんなに心を傾けても二人の間には超えられない溝がある。最後の悲劇は、必然なのである。児童の思いは、ごんの思い、兵十の思いを的確に読み取ることで、物語で語られる「他者と分かり合いたいという純粋な思い」への共感と感動を味わうことへとつながっていくと考える。登場人物の言動や場面の様子、鮮やかな色や自然の豊かな情景などの叙述に着目したり、心情の変化が場面の出来事とどのようにかかわっているのか考えたりしていくことで物語を豊かに読み、自分の考えを感想としてまとめる教材として適していると考えられる。

- ・関連教材の「手ぶくろを買いに」は、「ごんぎつね」と同じ狐が主人公の物語であり、新美南吉の代表作である。また、3年生の教科書教材に採用されているように、物語の展開がはっきりしていて、各場面のイメージが浮かびやすい物語であるため、児童が情景をとらえやすい物語である。場面展開や叙述に着目することで登場人物の心情変化をとらえやすいため、並行読書教材として適していると考えられる。

<⑤必要な指導・活動>

- ・登場人物の心情やその変化について叙述に即して読み取らせるために、時代背景、人物像などの物語の設定、自然描写のすばらしい記述など、物語を理解する上で重要なポイントを「読みの観点」として読み取りに位置付け、自力読みができるようにしていく。
- ・人物の心情を読み取り、その変化をとらえることで物語を豊かに理解するために、関連教材で比べ読みをする並行読書型授業を設定する。

<⑥今後の学習の活用>

- ・同じ作者、同じテーマなどに着目しながら、自分の読書生活を広げていけるようにする。

(2) 児童の実態及び指導方針

<これまでの既習の内容>

- ・7月の物語教材「ポレポレ」で、登場人物の性格や時、場所などの作品の設定をとらえたり、行動や会話などの場面の様子から人物の心情を想像したりすることを学習のねらいに、並行読書型授業プランで学習してきた。

<本単元にかかわる実態及び指導方針>

～「児童の実態」は省略～

- ・読みの観点を生かした読み取り学習を展開部に位置付けることで、7月の「ポレポレ」の学習を想起させ、児童が自信をもって自力読みができるようにする。
- ・教科書教材の読みを深め、児童が自分の考えをもてるようにするために、新美南吉の作品で狐を主人公にして同じテーマを扱った「手ぶくろを買いに」を関連教材として並行読書型の授業を設定していく。

3 研究とのかかわり

今日、子どもたちは、図書や新聞、テレビ、インターネットなどの様々なメディアからの多種多様な情報に囲まれて生活している。このような中、平成8年の中央教育審議会の第1次答申において「真に必要な情報を取捨選択し、自らの情報を発信し得る能力を身に付けることは、子どもたちにとってこれからますます重要」といった指摘がされた。そして、それ以降、子どもたちが自らの力で情報を活用していくことの重要性への注目がされてきた。このような時代背景や PISA 調査における我が国の児童生徒の課題等を受けて、国語科においては、従来の文字言語による「理解」による受信型の国語の学習だけでなく、自らの考えを基にした「表現」を中心とした発信型の学習が重視されてきている。これは、現行の学習指導要領の改訂の趣旨の中で、内容の改善で重視することとして「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力の育成」が挙げられていることから明らかである。さらに、「はばたく群馬の指導プラン」においても、児童生徒の課題として「考えたことを表現する力や日常生活と結び付ける力」が挙げられ、課題解決のための取組例が示されている。このことは、所属校の児童の実態で、「感想や自分の体験は書けるが、文章等から読み取ったことを活用し、自分の考えをもち、表現すること」に課題があると感じている点で、同様である。

そこで、本研究では、この課題に向き合うためには、教材や資料などの情報を取り出して組み合わせたり比べたりする学習活動を設定する必要があると考え、情報を活用する学習活動を位置付けた「並行読書型の授業プラン」を設定する。

情報を活用して自分の考えをもつためには、比較したり、関連付けたりする活動を学習過程に取り入れることが必要であると考え。

本単元では、物語世界を味わいながら物語のテーマについて考えるために、登場人物の心情変化をとらえるモデル学習として関連教材「手ぶくろを買いに」を並行読書で読んでいくこととする。二つの作品は、作者の伝えたいテーマが同じであり、主人公も同じ狐であることから、比べて読むことによって児童が読みを深めながら、自分の考えをもてるようになると思われる。

4 単元の目標






場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。

5 指導計画（全9時間予定）

時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動	関	読	言
		活用させたい知識等	思考力・表現力等				
評 価 規 準	国語への 関心・意欲・態度	叙述に着目して物語を読み、感じたことや考えたことを伝え合っている。					
	読む能力	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読んでいる。目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりしている。					
	言語についての 知識・理解・技能	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。					
第1時 第2時	課題 把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の意味の理解 ・ 物語の設定を理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の内容をおおまかにつかむ力 ・ 登場人物の性格をとらえる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主教材文を読み、感想をもつ。 ・ 物語のあらすじをつかむ。 ・ 物語の設定を理解し、ごんの人物像をとらえる。 	○		
第3時 第7時	課題 追究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心情を表す表現をとらえる力 ・ 大事な言葉や文を適切に書き抜く力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章から必要な情報を取り出す力 ・ 叙述から登場人物の心情をとらえる力 ・ 自分の経験と結び付けて考える力 ・ 自分の考えをまとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の心情が分かる言動や様子などの叙述を抜き出し、人物の心情を想像する。 ・ 情景描写や細かな人物の様子を伝える記述に着目し、人物の心情変化をつかむ。 ・ 物語の結末について話し合い、自分の考えを感想としてまとめる。 		○	
第8時 第9時	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連教材に教科書教材で学習した内容を転移させる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な情報を関連付けて考える力 ・ 今後の学習を見通しながら、身に付けたことについて考えをまとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連教材を読み取り、物語のテーマについて自分の考えをもつ。 ・ 感想を交流し、自分の考えを深める。 ・ 単元全体を振り返り、観点に沿って学んだことをまとめる。 		○	
					○		



6 指導と評価の計画（全9時間予定）



次過程	言語活動	時間	研究とのかかわり	主な学習活動 及び 評価
第1次 課題把握	並行読書で感想を交流する (作品世界から自分の生活を見つめ直す)	1		<ul style="list-style-type: none"> 作者新美南吉を知り、作品に興味をもつ。 教師による主教材の範読を聞き、初発の感想をもつ。 新出漢字、難語句の意味を確認する。 学習課題や学習計画を知り、学習の見通しをもつ。 <p>感想交流会をしよう ～作品の世界から自分の生活へ～</p> <p>【関】 感じたことや考えたこと初発の感想として伝え合うことができる。</p> <p>読みの観点② あらすじ</p> <p>読みの観点① 人物・時・場所</p> <p>関連教材「手ぶくろを買いに」</p>
		2	見通し① 「おもしろそう」「読んでみたい」と思わせる関連教材との出会いに興味をもつ	<ul style="list-style-type: none"> 物語の設定をとらえる。 自然描写に着目して、物語の舞台について理解する。 場面ごとの出来事をとらえて、物語のあらすじを理解する。 <p>【読】 物語の設定やおおまかな内容を理解することができる。</p>
第2次 課題追究	並行読書で感想を交流する (作品世界から自分の生活を見つめ直す)	3		<p>読みの観点③ 登場人物の性格</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面1を読み、前時で読み取った物語の背景や主人公「ごん」の人物像について、叙述を基に、確認していく。 叙述を引用しながら、いたずらをする「ごん」の心情を想像する。 <p>【読】 いたずらをする「ごん」の心情を想像することができる。</p>
		4		<ul style="list-style-type: none"> 場面2、3を読み、いたずらを後悔する「ごん」の心情を叙述を引用しながら、読み取る。 「ごん」の償いの意味を考える。 <p>【読】 いたずらを後悔する「ごん」の心情を想像することができる。</p>
		5		<ul style="list-style-type: none"> 場面4、5を読み、「兵十」への「ごん」の思いを叙述を基に想像し、「ごん」の「兵十」への気持ちが変化していることを読み取る。 「ごん」の償いの意味の変化を考える。 <p>【読】 兵十への気持ちが変化していく「ごん」の心情を想像することができる。</p>
		6	比べる 見通し② 主教材の読みを関連教材の読みで繰り返すことで、教材の読みが深まる	<ul style="list-style-type: none"> 関連教材「手ぶくろを買いに」について、作品設定やあらすじなどを確かめる。 場面の様子や登場人物の言動などの叙述から、気持ちの変化がどのように表現されているのかを確かめる。 最後のつぶやきから母狐の気持ちを読み取り、気持ちが変化するということは、どんなことなのか考えられるようにする。 <p>【読】 「手ぶくろを買いに」の母狐の気持ちについて考えることができる。</p>
第3次 まとめ	並行読書で感想を交流する (作品世界から自分の生活を見つめ直す)	7	人物の心情変化をとらえるための技能の習得 関連教材を情報として活用	<p>読みの観点④ 主題</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面6を読み、撃たれた「ごん」の様子やごんの行いを知った「兵十」の気持ちを想像して表現を味わう。 前時でのそれぞれの心情の読み取りを基に、「ごん」の行動にある思いや「兵十」の驚きの大きさを実感をもって理解し、作品の主題を考える。 「ごんぎつね」の感想をまとめる。 <p>【読】 兵十の気持ちを読み取り、主題について自分の考えをもつことができる。</p>
		8	まとめる 見通し③ 第2次で読み取ったことを基に、関連教材のまとめをして自分の考えをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> 「手ぶくろを買いに」の主題をとらえ、自分の考えをもつ。 グループで自分の考えを交流し、自分の考えをまとめる。 <p>【読】 「手ぶくろを買いに」の主題をとらえ、自分の考えをもつことができる。</p>
		9		<ul style="list-style-type: none"> 新美南吉の二つの作品を比べて、作者が伝えたいことについて自分なりの考えをもつ。 感想として自分の考えをまとめ、感想を交流し合うことで、学びを広げる。 単元全体を振り返り、自分の学びをまとめることで、身に付いた力を意識できるようにしていく。 <p>【関】 学習を振り返り、作品と自分の経験とを比べて自分の考えをもつことができる。</p>

<p>3 6つの場面ごとに出来事をとらえて、あらすじを理解する。</p>		<p>発問1：それぞれの場面で、どんな出来事がありましたか。「ごん」を主語にして考えてみましょう。</p>
<p>主人公は「ごん」だから、ごんがしたことを中心に考えていけばいいのね。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「ごん」の行動を手がかりにすることで、物語のあらすじが理解できることに気付けるようにする。 ・6の場面は視点が「ごん」から「兵十」に変わっていることをおさえる。
<p>「ボレボレ」でも学習したよ。</p>		
<p>4 自然描写を読み取り、自分の経験と照らし合わせながら物語世界を理解する。</p>		<p>発問2：物語の舞台になっている場所はどんなところでしょう。どんな場所なのか、よく分かる表現や自分がいいなと思う表現とその理由を挙げてみましょう</p>
<p>この間の台風の後、川を見た時の様子が同じようだった。おじいちゃんが、川でよく魚を捕ったって言ってたよ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「ごん」と「兵十」の出会いの場面に注目することで、大雨の後の川や兵十が魚を捕る場面の情景描写のすばらしさに気付けるようにする。 ・自分の経験から、同じような情景をすることで、物語世界を身近に感じられるようにする。
<p>兵十が魚をつかまえている様子が、とても想像しやすい。くわしく様子を書いてみると、テレビの画面を見ているみたい。</p>		<p>◇物語の設定やおおまかな内容を理解することができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p>
<p><本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>1 5分</p>	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。

<3 / 9 >


- (1) ねらい 叙述を基に「ごん」の人物像をとらえ、いたずらをする「ごん」の心情を想像する。
(2) 準備 ごんと兵十のイラスト 関連教材「手ぶくろを買いに」 ワークシート
(3) 展開




学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p><本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>読みの観点③ 「ごん」の人物像を考えよう</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起させ、本時の学習内容を理解できるようにする。
<p><課題を追究する> 2 場面1を音読する。 ・一斉音読する</p> <p>3 「ごん」の人物像について考える。</p> <p>「ひとりぼっち」だから寂しがり屋なのかな。 「いたずらばかり」するから、いたずら好きなのかな。</p> <p>小ぎつねって、体が小さいってことで、子どもではないということなんだね。</p>	<p>20分</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で音読することで、学習する範囲を確認できるようにする。 <p>発問1：「ごん」はどんな狐なのでしょう。本文から根拠を探して、それを基に考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いたずらの内容や兵十の言葉に注目することで、ごんが村の人たちから、どのように思われているのか、とらえられるようにする。 ・「小ぎつね」に着目し、子どもではないことに気付くようにする。「手ぶくろを買いに」では、小ぎつねであることを確認する。 <p>◎場面1の叙述から「ひとりぼっちの小ぎつね」「いたずら」の叙述に注目できるようにする。</p>
<p>4 いたずらをする「ごん」の気持ちを考える。</p> <p>ごんのいたずらは、人のめいわくになることばかり。本当は、悪い狐なのかもしれない。</p> <p>人間に対してとても興味があって、自分から寄っていく感じがする。</p>		<p>発問2：「ごん」の行動から、気持ちを読み取ってみましょう。どうして、そんなことをするのか、想像してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「兵十か」に着目することで、すぐに名前が分かるほど、ごんの人間に対する興味が高いということに気付けるようにする。

<p><課題を追究する></p> <p>2 場面4、5を音読する。 ・一斉音読する</p> <p>3 場面4、5から「ごん」の心情が分かる記述を抜き出す。</p> <div data-bbox="159 353 614 474" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「二人の話を聞こうと思って、ついでにきました」とあるから、ごんは兵十がすごく気になるんだと思う。</p> </div> <div data-bbox="159 497 614 645" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「おれにお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃない、おれは、引き合わないな」から、兵十に気付いてほしい気持ちが強い。</p> </div> <p>4 つぐないをする「ごん」の気持ちを考える。</p> <div data-bbox="199 743 662 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>人間にみつからないように、くりをとどけてつぐないをしているから、神様のしわざと思われれば都合がいいのに、ごんは「つまらない」と言っている。きっと、気付いてほしいんだ。</p> </div> <div data-bbox="199 922 662 1093" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>神さまのしわざと思われていても、くりをとどけることを続けているから、兵十への気持ちは、ただのつぐないという気持ちだけじゃないかもしれない。</p> </div>	<p>20分</p>   <p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全員で音読することで、学習する範囲を確認できるようにする。 <div data-bbox="826 286 1471 385" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問1：場面4と5の中から、「ごん」の気持ちが分かるところを抜き出してみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ごんの視点から語られる兵十と加助の会話場面の詳しい叙述から、兵十の様子を知りたいという「ごん」の思いが強いことをおさえる。 ごんが村人の名前や家、御念仏などの行事をよく知っていることをおさえることで、ごんの人間に対する興味の高さに気付けるようにする。 <div data-bbox="826 645 1471 721" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問2：「ごん」の行動から、気持ちを読み取ってみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの根拠として、自分が着目した本文の記述を必ず抜き出すようにする。 「つぐない」ということのごんにとっての意味について考えさせる。 <div data-bbox="826 936 1471 1070" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇兵十への気持ちに変化している「ごん」の心情について、叙述を基に想像することができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p> </div>
<p><本時のまとめをする></p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。

<6/9>

- (1) ねらい 関連教材「てぶくろを買いに」を比べ読みをする中で、母ぎつねのつぶやきに着目し、人物の心情変化について考える。
- (2) 準備 関連教材「手ぶくろを買いに」 ワークシート
- (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p><本時の課題を把握する></p> <p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="130 1489 699 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読みの観点③ 心情の変化について考えよう</p> </div>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を想起させ、本時の学習内容を理解できるようにする。
<p><課題を追究する></p> <p style="text-align: center;"><比べる></p> <p>2 関連教材「手ぶくろを買いに」の読みの観点①を基に、内容を確認する。 ・時 ・場所 ・人物</p> <p>3 「手ぶくろを買いに」で、登場人物の気持ちの変化をとらえる。</p> <div data-bbox="156 1854 614 1966" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>気持ちの変化のきっかけになることは、物語のクライマックスとつながっている。</p> </div> <div data-bbox="156 1989 614 2065" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>情景描写に注目すると、人物の気持ちがよく分かることがあるね。</p> </div>	<p>20分</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 物語を理解するためには、作品の設定をおさえることを想起できるようにする。 人物象をおさえながら、物語のおおまかなあらすじを確認する。その際、「ごんぎつね」との類似点について考えられるようにする。 <div data-bbox="826 1765 1471 1854" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問1：登場人物の気持ちが大きく変わったところはどこでしょう。その根拠も挙げてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 「手ぶくろを買いに」では、母狐の心情が大きく変わっていることに気付くことで、最後の母狐の言葉について考えられるようにする。 行動の様子を表す表現を根拠として、人物の心情は想像できることを確かめ、自分が着目した本文の記述を必ず抜き出すようにする。

<p>4 母ぎつねの最後のつぶやきについて考える。</p> <div data-bbox="127 235 646 380">  <p>子ぎつねが手ぶくろを買えたことから、人間に対する気持ちが変わってきている。でも、人間はいいものという気持ちになってはいない。</p> </div> <div data-bbox="159 392 694 548">  <p>いいものかしらって繰り返しているほど、考えられないことが起こったから、母ぎつねの気持ちは大きくゆれているんだ。</p> </div> <p>・交流して自分の考えをまとめる。</p>	<p>1 5 分</p>	<div data-bbox="821 190 1444 280">  <p>発問2：最後のつぶやきから、母狐の心情を考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 母狐の今までの行動などから、つぶやきの意味を考えられるようにする。 ラストシーンから、気持ちが揺さぶられる「葛藤」や気持ちの揺れを象徴する「余韻」について、十分に味わえるようにする。 <div data-bbox="813 526 1452 638" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇「手ぶくろを買いに」の母狐の気持ちについて考えることができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p> </div>
<p><本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5 分</p>	<p>・本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。</p>

<7/9>

- (1) ねらい 前時の「手ぶくろを買いに」での人物の心情をとらえる着眼点を生かして、「兵十」の心情を読み取り、物語の主題について自分の考えをもつ。
- (2) 準備 ワークシート
- (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p><本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="127 1108 694 1164" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読みの観点④ 主題 自分考えをまとめよう</p> </div>	<p>5 分</p>	<p>・前時の学習を想起させ、本時の学習内容を理解できるようにする。</p>
<p><課題を追究する> ◇<比べる> 2 場面6を音読する。</p> <p>3 兵十の気持ちを考える。</p> <div data-bbox="159 1344 566 1545" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・くりをとどけてくれたのが、ごんだとわかってびっくりしている。「どうして？」という気持ちでいっぱいだと思う。 ・いたずらをしにきたのではないのに、撃ってしまった。</p> </div> <p>4 「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました」の一文について考える。</p> <div data-bbox="127 1736 678 1960" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・とても静かな時間を表している感じがする。 ・「手ぶくろを買いに」も最後の文が母ぎつねの気持ちを表していて、想像できる終わり方だった。ごんと兵十は、何を考えていたのだろう。</p> </div>	<p>1 5 分</p>	<div data-bbox="790 1276 1428 1332" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問1：「兵十」の気持ちを読み取ってみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 学習する範囲を確認する。 場面6では、語りの視点が「ごん」から「兵十」へと変わっていることをおさえ、その理由を考えることで、主題を考えるヒントにしていく。 兵十の行動描写を丁寧におさえながら、兵十のゆれる心情を想像できるようにする。 「ごん、お前だったのか」「ばたりと取り落としました」の叙述を中心に考えるようにする。 <div data-bbox="813 1646 1452 1724" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問2：最後の文章に込められている意味について考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 「青いけむりが、まだつつ口から細くでていました」の記述に注目し、場面の雰囲気について想像できるようにする。 「うなずきました」というごんの様子から、どんなことを読み取れるか考えられるようにする。 全体で考えの練り上げを行い、考えを共有できるようにする。 初発の感想と比べて、自分の読みが深まったことを実感できるようにする。

・感想を発表し合い、友達のことを知る。	20分	◇兵十の気持ちを読み取り、主題について自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言) 【読】
5 <本時のまとめをする> 本時の学習を振り返る。	5分	・本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。

< 8 / 9 >

- (1) ねらい 「ごんぎつね」の主題について自分の考えをもつ。
(2) 準備 ワークシート
(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認する。 作品の主題について考えよう	5分	・前時の学習を想起させ、本時の学習内容を理解できるようにする。
<課題を追究する> <まとめる> 2 作品の主題について考える。 ・自力読み ・グループ交流 人間もきつねも、相手をよく見たり、正しいことをしようとしたりすれば、きっと、わかり合える。 わかり合うということは、難しいことだけれど、相手のことを思ったり、正しいことをしたりしていれば、できると思う。	15分	・前時での読み取りを振り返り、全体でのまとめを確認する。 発問1：作者の新美南吉が、読む人に伝えたかったことはどんなことでしょう。 ・二つの作品のラストシーンでの登場人物の心情に注目することで、人間と狐という関係だけに当てはまることなのか、自分の経験と照らし合わせて考えられるようにする。 ・自分の経験と照らし合わせた考えを引き出せるように意図的に指名していく。 ・グループ交流で自分の考えをまとめられるようにする。 ・自分の考えの根拠として、自分が着目した本文の記述を必ず抜き出すようにする。
3 物語の主題を自分の経験と照らし合わせて考える。 ごんの思いがやっと兵十に届いたと思ったら、ごんは撃たれてしまった。ごんと兵十の立場が違いすぎるから、思いが通じ合うのは難しい。 兵十は、ごんのこと「ぬすぎつね」と思っていた。だから撃ってしまうことは当たり前。通じ合うということは、お互いの気持ちが必要なんだ。	20分	発問2：考えたことをまとめてみましょう。 ・自分の考えに加筆したり、修正したりして考えを深めていけるように、全体で交流した意見を確認する。 ◇作品の主題について自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言) 【読】
5 <本時のまとめをする> 本時の学習を振り返る。	5分	・本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。

< 9 / 9 >

- (1) ねらい 二つの作品から考えたことを自分の感想としてまとめ、伝え合う。
 (2) 準備 ワークシート
 (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p><本時の課題を把握する> 1 本単元の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">感想交流会をしよう</div></p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を想起させ、単元での学習をまとめることを確認する。
<p><課題を追究する> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"><まとめる></div> 2 作者新美南吉が伝えたいことは何か考え、作品の感想としてまとめる。 <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">わたしは、自分の一方的な思い込みで、友だちとけんかしたことがある。相手の立場になって考えることがとても大切だと思った。ごんのおさみしさも分かるような気がする。</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-right: 10px;">お互いが分かり合うことの大切さや難しさを、新美南吉は伝えたいのではないだろうか。</div> </div> 3 感想交流会をする。 <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">それぞれ書き方は違うけど、同じところに注目していた。いろいろな表し方があるのだなと思った。</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-right: 10px;">物語だけど、自分のことと似ているなという感想があった。自分の生活とも比べられるんだね。</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 感想を発表し合い、友達の考えを知る。 </p>	<p>20分</p> <p>15分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>発問1：作者の新美南吉が、読む人に伝えなかったことはどんなことでしょうか。二つの作品を比べて書いてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 今までまとめてきた、二つの物語の読み取りを振り返り、今までの感想を基に、自分の考えをまとめられるようにする。 ごんや兵十、母狐の行動や気持ちの変化などから、自分の経験と照らし合わせて考えられるようにする。 <p>◎今までまとめてきたワークシートやノート、書き込みなどを見直し、自分の考えを振り返ってつなげていくように助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発問2：同じところや違うところがあったと思いますが、友だちの感想を聞いてどう思いましたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 感想を発表し合い、さまざまな感じ方や考え方があることを理解できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>◇主題と自分の経験とを比べて、自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p> </div>
<p><本時のまとめをする> 4 単元の学習を振り返る。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。